

| No. | 意見 |
|-----|--|
| 303 | <p>こどもまんなか社会における学生視点に立ったまちづくり／鴨島駅＋駅前商店街への提案。</p> <p>現在、学生がJRで鴨島へ遊びに来たとき、駅からの交通手段がない（徒歩に限られる）ため大変不便な状況になっている。そこで、駅で自転車の無料貸し出しサービスをしてはどうか。移動時間は短縮され、行動範囲も広がる。保護者に送迎の負担をかけることもない。次に、現在の駅前商店街は、学生が立ち寄る場所は少なく、どこか暗い雰囲気が漂っている。通り過ぎる場所であって、ここで遊びたいと思う雰囲気ではない。そこで、学生にとって意味のある場所にするために、空き店舗を使って自習室を設けて欲しい。希望利用時間は、夕方午後5時から午後9時まで。家では集中できないという理由で、図書館や塾の自習室などで勉強する学生は多い。ぜひ実現してほしい。駅前自習室は学生に絶大な人気を得られるはずだ。</p> <p>普段私たちが不便だなと感じていることを、オリジナルアイデアに変えて意見として伝えるのは、とてもワクワクする。学生から支持される鴨島駅と駅前商店街、想像するだけで吉野川市の未来が楽しみになる。</p> |
| 304 | <p>少子高齢化社会である日本で、近い将来私たちが背負う負担を考えるとゾッとする。社会保障制度を支えるため、税金などを引き上げて安定的な財源を確保することの意味は理解できるが、私たちが大人になったとき、国民の負担がどれほどになっているのか想像もつかない。しかし一方で、日本から外へ目を向ければ、世界のなかで日本がどれだけ恵まれているのかがよく分かる。制度はしっかりしており、毎日しっかり食べられる人が多いと思う。こどもまんなか社会の実現には、こどもが将来にわたって幸せな生活を送ることができなければならない。こどもたちが安全に生活できるよう地域の安全を守り、私たちやこれから生まれてくるこどもたちが皆、幸せをつかむことができる社会になってほしい。</p> |
| 305 | <p>こどもまんなか社会を考えるに当たり、日本にも貧困に位置づけられるこどもが増えているということを知り驚いた。経済格差が教育格差を生み、さらなる格差につながる負の連鎖を少しでも解消できるよう、社会全体で取り組む必要があると思う。一人でも多くのこどもが自己肯定感を持てる環境で成長できるよう行動しなければならない。</p> |
| 306 | <p>吉野川市内に本屋を増やして欲しい。近所には本屋がなく、親の送迎がなければ行くことができない。そもそも店舗数自体が少ないため、本の種類も少なく、限られた選択肢の中から選ばなければならない。図書館は古い本が多く、新しく入る本は少ないため、読みたい本はあまり読むことができない。本を手に入る機会を多くすることで、本をあまり読まない苦手な人も、読んでみたい本に出会えたり、魅力を知りきっかけになるのではないか。アプリではなく、実際に本を手にとってみる必要があると思う。本を読むことで、自分の知らなかったことを知り、豊かな表現を知り、様々な人との関わりを増やすことができればいいと思う。</p> |
| 307 | <p>厚生労働省の調査では、現在中学2年生の17人に1人が日常的に家族の世話をしていると回答している。すべてのこどもが「こどもとしての時間」を持ち、将来の進路が閉ざされることのないよう、ヤングケアラーゼロ社会を目指して、大人もこどももまずは関心を持ち、周囲に目を配っていかなければならない。</p> |

| No. | 意見 |
|-----|--|
| 308 | <p>現在の日本は、経済的格差による教育格差が広がっていると考えられている。学校の学びだけでなく、自由に様々なスクールに無償で通うことができたら、学校教育に馴染めず不登校になっているこどもの数は激減するのではないだろうか。学びの多様性を保障することが真の教育の平等だと思う。学校の枠を飛び出し、自分の得意を伸ばすことができれば、多様性が広がり、もっと面白い世の中になる。教育の充実が、世界の中での日本の国力を上げることに繋がっているはずである。私はそういう日本で暮らしたいと思う。</p> |
| 309 | <p>少子高齢化が加速度的に進む現代において、高齢者が孤立せず、個性を尊重され、且つ社会参加できる社会の実現は、私たちが直面している大きな課題である。私は、曾祖母が亡くなったことで一人暮らしになった曾祖父の認知症発症に衝撃を受け、戸惑い、そのことを強く感じた。例えば、登下校の見守りボランティアを担ってもらったりなど、高齢者が活躍できる場、働くことのできる場を設けることで、子育て世代を含めて地域全体が一つになるのではないかと。私たち学生にできることは、積極的にボランティア活動に参加し、地域コミュニティに加わることだと思う。地域を支えるメンバーの一員として、その実情を知り、課題の解決に向けて行動したいと思う。</p> |
| 310 | <p>こども家庭庁によると、こどもまんなか社会は、こどもの視点に立ち、その意見を聴くことによって実現されるとある。私は、交通ルールやマナーを守らない大人に日ごろから疑問を感じている。登下校時、信号のない横断歩道で横断しようと思うとき、車は全く止まってくれない。下校時、自転車で土手を走っていると、道路端を走行しているにも関わらず大きくクラクションを鳴らされ、追い抜いて行く際には運転手に睨まれて心が痛くなる。また、道路沿いの草は自転車で通行することを考えて除草してもらいたい。今後のヘルメットの義務化についても、ヘルメットを被ることに抵抗を感じる若者の意見を聴き、取り入れて欲しい。</p> |
| 311 | <p>生まれてからずっと暮らしている吉野川市のことを改めて考えてみた。良いところは、人がとても温かく助け合いが多く行われていること。また多くの美しい自然に囲まれていることだ。しかし一方で、改善が必要だと感じるのは、子どもが外で思い切り遊べる大きな公園がないことや、ゲームセンターやボウリング場なども市外に行かなければならないことなど、子どもが遊ぶことのできる環境ではないことだ。徳島県の14歳以下の人口はたった11%であり、吉野川市はさらに少なく10%の割合しかないが、将来を担う子どもが育つための、子どもにとっての環境整備を行う吉野川市であってほしいと思う。</p> |
| 312 | <p>東京の大学に進学を考えたとき、都市部に住む学生と地方に住む私とでは、受験に関して、得られる情報量やチャンスに明確な格差がある。「田舎だから」この理不尽を我慢しなければならないのか。 次代を担う私たち若者が希望を持てる社会にするためには、「都会ではないから」「お金持ちじゃないから」「男(女)じゃないから」そんな理由で夢を諦めることなく、本人が希望し努力すれば自分の未来を切り拓くことができる、挑戦するチャンスが平等に与えられる世の中にする必要がある。世の中には様々な事情を抱えた子どもたちがいる。経済的な事情、家族の介護を余儀なくされているヤングケアラー、障がいを持っているなど、そういった子どもたちも含めた全ての若者が、自由に自分の未来を選択できる社会になってほしい。未来を創る若者が、社会の真ん中で笑顔でいられる社会になってほしいと思う。</p> |

| No. | 意見 |
|-----|--|
| 313 | <p>都会への憧れはあるものの、心をほっこりと和ませてくれる吉野川市の人や自然の「暖かさ」は本当に素晴らしいと思う。私は、進学を機に吉野川市外から通学するようになり、知らなかった吉野川市の良さを知ることができた。吉野川市の良さを多くの人に知ってもらえれば、吉野川市に住みたいと思う人や訪れたいと思う人が増えると思う。まだ知らない人にぜひ吉野川市の素晴らしいところを沢山知ってもらい、吉野川市を大好きになってもらいたいと思う。</p> |
| 314 | <p>私は明るく雰囲気の良い吉野川市になってほしい。町の雰囲気を良くするには、地域の人と挨拶などの日常的なコミュニケーションをしっかりとることが大切だ。そして、道路や川にポイ捨てされているゴミをなくすことにより景観をよくすることも必要だと思う。次に、明るい町にするために、吉野川市内にショッピングモールをつくって欲しい。今は市外まで時間をかけて行かなければならないが、市内にあれば多くの人で賑わう場所となり活性化に繋がると思う。</p> |
| 315 | <p>私の考えるこどもまんなか社会は、一つには、子どもを社会全体で守り育てていくことだ。子どもは家庭や学校だけで育つのではない。私自身、沢山の人から温かく支えられて成長してきたと思う。次に、子どもは全ての世代の人を繋ぐ中心的な存在であるということだ。小学校の担任の先生の口癖は、「おまえたち子どもが大人になって社会を変えていくんや。これからの時代を作っていくおまえたちを、じいちゃんもばあちゃんも、これから生まれてくる赤ん坊も、はたまた俺みたいなおっさんも期待してるんやで」だった。よりよい社会にしていくためには、大人は子どものために出来ることを考え続ける必要があるとともに、子どもも全ての世代を幸福にするために努力しなければならないと思う。私は将来、多様な個性を大切に出来る温かい心をもった子どもを育てる保育士になりたい。こどもまんなか社会は、決して子どもだけが幸せになるのではないだろう。全ての人が幸せに、安全に暮らせるよう、これからの社会を担う子どもをまず、真ん中に据えるのだ。</p> |
| 316 | <p>こどもまんなか社会の実現に向け、より良い社会にするために必要なのは、人との交流（コミュニケーション）だと思う。子どもには、地域の人と交流する機会を多く与えるべきだ。地域の人と関わることで、あいさつや助け合いができ、加えて、最近家でゲームで遊ぶことによるコミュニケーション力の不足も補えるのではないかと考える。また、共働き家庭が多くなり、子どもにとって家族との時間は少なくなっていると思う。食事の時間は、家族の中でコミュニケーションを取ることに適しているが、食事を1人で食べる子どもが少なからずいる。その時間を補うために「こども食堂」を増やす支援をするべきだと思う。子どもが小さな頃から人との交流の中で育ち、交流を大切に、家族といられる時間をより多く持てるようになればいいと思う。そして、こどもまんなか社会の実現が少しでも進めばいいと思う。</p> |
| 317 | <p>交通ルールについて思うこと。学校活動をとおして、地域の見守り活動があり、多くの方は交通ルールを守っているが、中にはヘルメット非着用や並進の自転車がみられる。注意をされたときは直すが、また並進に戻っていたりするのは腹立たしく感じる。自動車が交通ルールを守るだけでなく、自転車もヘルメットを着用し、交通ルールを守ることで、双方が安心して生活できるのだ。将来は、皆がルールやマナーを守り、誰もが幸せに、安心して笑顔で暮らせる町になって欲しいと思う。</p> |

| No. | 意見 |
|-----|--|
| 318 | <p>今の日本で良いところは、教育の機会が平等であるということだ。全ての子どもが、同じ質の教育を受けられることは素晴らしいことだと思う（ただし、宿題の量は考えてもらいたい）。こどもまんなか社会における子どもの意見の聴取について考えると、今の日本は、18歳以上に選挙権がある。SNSなどでは、若い世代が選挙に行かないということや、高齢者の意見が通りやすいといった問題点（課題）を目にする。私は「大人が行かないなら代わりに行くのにな」と思うこともある。子どもも選挙に参加できるようにして欲しいとはさすがに言えないが、高校生くらいになると社会に関心が出てくる子どもはいると思う。そのような子どもの意見を聴く機会を設けることは必要なのではないだろうか。今の日本を、地方からでも子どもや若者にとって良いことができれば良いと思う。</p> |
| 319 | <p>私が自習で利用する「ミライズ」では、高齢者と小学生や中学生が将棋を指しているのをよく見かける。またこども食堂などのボランティア活動でも、多くの高齢者の活動している姿が見られる。高齢化社会において、高齢者が生き生きと活躍できる場をしっかりと考えていく必要があると思う。</p> |
| 320 | <p>作文を書くにあたり、吉野川市について自分なりに調べた結果、吉野川市は子育てがしやすい環境であるのと同時に、過疎の進んだ地域とそうでない地域で、生活のしやすさに大きな差があるということを知った。過疎の進んだ地域では、車に乗れない人や高齢者は買い物にも不便である。吉野川市の魅力は、様々な年齢層の人が交流し、支え合える温かさだと私は思う。今ある良さを活かしながら老後も暮らしやすい吉野川市にするため、若い世代の私たちがまちづくりに取り組んでいかなければならない。まずは過疎の進む地域にも買い物できる場所を作ったり、JRの駅へ行くための交通手段を便利にすることが必要だと思う。</p> |
| 321 | <p>こども基本法の趣旨から考えた取組を提案。①子どもは他者との関わりの中で成長していく。地域交流の場（親子で参加するお祭りなど）を多く作り、子どもたちが成長し豊かな人間関係を築ける吉野川市になってほしい。②共働き家庭が増えているために、放課後子どもだけで留守番をしなければならない場合も多い。子どもも親も安心して暮らせるように、警察等と協力した放課後の見守り活動などによる防犯対策の強化をしてほしい。③子どもがのびのび育つためには、親が子育てしやすいと感じられる環境を作ることが必要だ。少子化が進む中で耳にする子どもを持たない理由には、金銭的な余裕がないということがある。複数子どもを育てるのは多くの負担を伴うため、経済的な支援は重要だと思う。</p> <p>こども基本法の認知度はまだまだ低いと思う。自分自身、SNSなどを利用し周知するなど、1人の力は小さいかも知れないが、自分にできることを積極的に取り組みたいと思う。</p> |
| 322 | <p>交通ルールについて思うこと。①見通しが悪い場所にはカーブミラーを設置することや速度を落とすための対策を行い、飛び出しを防ぐことが必要だ。②スマホを使用しながら運転する人が増えている。蛇行運転になり周囲を巻き込んで迷惑をかけている。また自転車でも、イヤホンを使用して音を遮断しているため、接近した自動車やバイクに気づかず、周囲に迷惑をかけてしまっている。スマホを使用する際には、路肩など邪魔にならない場所に一時停止するべきだ。③道路を通行する際の気遣いは大切だ。車が走行しやすいように気を配る、また逆に歩行者を優先するなど、当たり前と思われることだが、出来ている人をあまり見たことがない。気遣いや譲り合いがもっとできれば、より暮らしやすい地域になると思う。以上の3つのことをまとめると、周囲をもっと見て行動してほしいということだ。周囲を見ることで、「ありがとう」という言葉も増え、みんなが優しい地域になると思う。</p> |

| No. | 意見 |
|-----|--|
| 323 | <p>吉野川市の良い点は自然豊かなところだが、悪い点は交通ルールを守れていない人が少なくないことだ。私自身、信号を無視した車に2度ほど轢かれそうになったことがある。小学生の妹の友だちも同じような経験をしている。もう少しで命に関わる事故に繋がるような恐ろしい体験は、子どもの心に大きな傷を付け、その恐怖はトラウマにもなってしまう。こういった怖い思いをする人が1人でも減るよう、交通ルールや交通マナーを守ることができる吉野川市になってほしいと思う。</p> |
| 324 | <p>吉野川市の交通マナーについて。私が自転車や徒歩で国道を横断する際、信号が青になり横断歩道を渡ろうとすると、ほとんどの車が歩行者の私よりも先に右折（左折）してくる。もしくは、横断歩道ギリギリまで近づいてくるためとても怖いと感じる。また、歩道に進入して車を停める人も多いため、歩行者は車の移動を待つか、避けて通行しなければならない。しかしまた一方で、歩行者や自転車にもマナーが守れていない人が多いと思う。横断歩道のない場所で道路を横断していたり、青信号になる前に横断を始めたたり、ヘルメットを着用していないなど。吉野川市に住む人たちが皆が自分や周りの人のために、安全確認を心がけたり、一時停止したり、交通ルールやマナーを守ること、安心して暮らせるより良い町になって欲しいと思う。</p> |
| 325 | <p>新型コロナウイルス感染症対策の影響の一つとして、全国的な子どもの体力の低下についてしばしば耳にするようになった。併せて、徳島県の肥満傾向は全国平均を上回っている。これらの背景には、子どもが外遊びをしなくなった（減った）ことがあると思われる。吉野川市に気軽に遊びにいける公園ができれば、自ずと外遊びをすることも増えると思う。吉野川市にはぜひ公園を作り、外遊び推奨の啓発してほしい。そして、元気な子どもがたくさんいる徳島県になってほしい。一方で、学校には、過酷な長時間練習を課す「ブラック部活動」から子どもを守るガイドラインがあるものの、熱中症事例は毎年発生している。ルールがきちんと守られているのか改めて見なおす必要があるだろう。将来大人になったとき、大人と子どもがともに意見を分かち合い、双方が納得できる社会になっていけばいいと思う。</p> |
| 326 | <p>全ての子どもが当たり前で教育を受けられる世界になって欲しいと思う。日本では当たり前の学校教育だが、世界にはその日を生きることに精一杯で教育を受けられない子どもたちが沢山いる。しかし日本にも子どもの権利が制限されているヤングケアラーの問題はある。教育を受けられることは、決して当たり前ではないということや、今の私の環境はただ運が良かったのだと改めて感じる。教育を受けることで、知識を身につけ仕事に就くことができ、教育を受けた人が多くなることで社会も発展していく。誰もが教育を受けられる社会（世界）になるよう、自分にできることをしていきたい。募金も積極的にしたいと思う。</p> |
| 327 | <p>自分の身の回りでいえば、学校内環境の整備が進み、快適に授業を受けられるようになってきたのが嬉しく思う。また、トイレや手洗い場など衛生面に関わる場所はきれいであってほしいと思う。学校周辺に目を向けると、やはり交通ルールを守っていない危険な状況を良く見聞きする。ルールを守り、ヘルメットは必ず着用することで、安心安全な暮らしやすい吉野川市になってほしい。自然が豊かな吉野川市のいいところを大切に、次世代に続く安全で暮らしやすい吉野川市になるよう、私にもできることを考え行動していきたいと思う。</p> |
| 328 | <p>吉野川市を活性化させるために①若者に人気のある店や興味を引く店を多く作ることで、SNSで発信してもらおう。②コンサートやライブ、スポーツなどができる大型施設を作り、有名人などを呼ぶことで市内外から集客し、盛り上がるイベントを開催する。③環境のことを考え、プラスチックごみは可燃物と別に収集する。</p> |

| No. | 意見 |
|-----|---|
| 329 | <p>子どもと地域との交流の機会はとても少なくなっている。以前受けた家庭科の授業で、今の子どもに不足している3つの「間」として「空間、時間、仲間」があげられていた。私は、この課題解決とこどもまんなか社会の実現とは密接な関わりがあると思う。私の知る具体的な交流の場には、こども食堂、夏休みのラジオ体操、登下校の見守り活動やあいさつなどがある。こども食堂は、地域の様々な年代のボランティアと子どもたちが集まり、強い繋がりを築くことができる貴重な機会だ。また、登下校中に近所の人から掛けられる「いってらっしゃい」の言葉は、小学生の頃の私にとって大きな安心感だった。あいさつによる地域の繋がりは、犯罪の抑止力という効果もあるらしい。子どもが活躍できる環境は、子どもが安心して過ごすことのできる環境にある。子どもたちが精一杯活躍できるように、小さな一つひとつの繋がりを大切にしながら生活することを意識していきたい。</p> |
| 330 | <p>学習スペース（自分の居場所）の充実→心のゆとり→世界平和。</p> <p>地元の図書館の自習スペースはいつも学生で満席になっており、絶対的に席数が足りていない。テスト前などは特にひどく、朝一番に確保しなければ座れない。座れなければモヤモヤした気分になり、勉強への意欲も減退してしまう。また、席の確保ができて勉強しているとき、次々と同じような学生がやってきて席に座れず帰っていくのを見ると、なんだか気まずい気持ちになるし、その子の気持ちを考えると申し訳ない気持ちにもなる。座れても座れなくてもモヤモヤする。そうするうちに勉強への集中も切れてしまう。この自習スペースの不足という課題解決のために、市内に学習スペースを点在させてはどうか。例えば小中学校の図書室を、休日9時から17時まで開放するなど。身近に学習スペースができれば、様々な事情によって家庭で学習できない学生の「居場所」となり、心にゆとりが生まれると思う。</p> <p>心にゆとりがない状態は、相手のことを思いやる余裕がなくなる。それが嫌な言葉や態度になって頭れてしまい、そうされた人も当然嫌な気持ちになるので、その人も周囲へ不機嫌な態度をとるようになる。それが伝播していき、大きくなると喧嘩やいじめ、諍いに繋がる。その最たるものが戦争だ。そうならないために私たちはいつも心にゆとりを持ち、ご機嫌でいることだ。そんな心持ちでいられるよう、私は、子どもの学習スペース（自習スペース）の増加を希望する。吉野川市の子どもたちが心の平穏を保ち、家庭や学校でそのご機嫌を伝播していき、こどもまんなか社会の実現に繋げていけたら～平和な世の中にしていけたら～と考える。</p> |
| 331 | <p>誰しも一度は自殺について考えたことがあるのではないかと。日本の若年層（10歳～39歳）の死亡原因の一位は自殺である。また15歳～34歳までの死亡原因の一位が自殺なのは、G7諸国の中で日本だけだ。日本の若者の自殺原因で最も多いのは学校に関すること（学業不振、進路問題など）である。家族や友だちの支えがあれば、失わずにすんだ命があったのではないかと。自分の少しの支えで救える命があるなら助けたいと思ったとき、ゲートキーパー（命の門番）という言葉を知った。周囲の人のSOSのサインに気づき、声を掛け、話を聴き、支え守るなどの適切な対応を図ることができる人のことだ。私はゲートキーパーになりたい。そして若者の自殺数の多い日本で、こどもたちの未来を守るため、多くの命を守り救うゲートキーパーを育てる活動を実施してほしい。私の願いだ。</p> |
| 332 | <p>少子化の進む日本では、子どもの死亡率は年々上昇している。夏期の海や川などでの死亡事故や、エアコンを切った車内や屋内への放置による熱中症事故が幼児の死亡原因に目立つ。小中高生には、精神的虐待、身体的虐待が多い。これらによる死亡を防ぐために、幼児からは目を離さない、一人にさせない、危険な場所に近づけないのが大切だ。また、虐待かもしれないと思ったら迷わず「189」に相談することが、日本の子どもの死亡率を下げることに繋がると思う。全ての子どもが命が守られ、自分らしく健やかに、安心して暮らせる社会になってほしい。</p> |